

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	希釈式自己血輸血の凝固能は返血時間に影響を受けるか		
2. 対象患者	当院で希釈式自己血輸血を施行する手術患者様		
3. 対象となる期間	2018年 7月 1日 ~ 2020年 3月 31日		
4. 実施診療科等	麻酔科		
5. 研究責任者	氏名	斎藤淳一	所属 弘前大学医学部附属病院 集中治療部
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	共同研究機関はありません。		
7. 研究の意義	希釈式自己血輸血の有する血小板や凝固因子が失活せずに止血効果を期待できる期間を明らかにすることでより有効な希釈式自己血輸血の実施が可能となります。		
8. 研究の目的	希釈式自己血輸血で採血した血液を血液凝固分析装置(ROTEM®)を用いて凝固能を評価します。返血時と採血時の血液の血液凝固分析装置の結果を比較することで採血した自己血の凝固能が保持される時間を明らかにします。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等)	当院では他家血輸血を避けるため希釈式自己血輸血を積極的に行っています。希釈式自己血輸血を行う際には脱血前、脱血後、返血前、返血後に採血を行っています。今回は脱血後と返血前の採血に使用した血液の一部を血液凝固分析装置で凝固能を評価します。血液凝固分析に用いる血液は、通常の治療に伴い採取されたものを利用するため、新たな採血や通常よりも多くの血を採取するようなことはありません。		
10. 個人情報の保護	それぞれのデータは名前等の記載はせず、またデータ自体は個人の特定性が低いいため、解析やデータの公表にあたっては各個人の同定は不可能であり、対象者のプライバシーは十分に擁護されると考えます。収集したデータは麻酔科学講座で保管します。該当患者様およびその御家族から当検討へ批判や拒否の意向が示された場合には該当患者様のデータを削除します。ただし、学会や論文に発表・投稿後に拒否の意向を示された場合、公表後の結果を修正することはできませんので、御了承願います。		
11. 利益相反に関する状況	研究責任者、すべての共同研究者に開示すべき利益相反は存在しません。		
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座		
	電話	0172-39-5113	FAX 0172-39-5112